

自己紹介：川浦 昭彦

(職歴)

1984－1985 新日本製鐵株式会社

(1985－1989 大学院博士課程)

1989－1991 国際連合アジア太平洋経済社会委員会(バンコク)

1991－1995 世界銀行(ワシントン特別区)

1995－2005 小樽商科大学

2005－ 現職

その他論文など・・・

<http://www1.doshisha.ac.jp/~kawaura>

総合政策科学研究科ホームページからも開けます

「経済学」とは？

一般的な印象

- 1: 数式モデルを使ったりしても、現実の社会の問題を解決できないのでは？
- 2: 「金儲け」には役に立たないのではないか？
- 3: 社会の「不平等」のような問題には対処できないのではないか？

経済学は「社会」をどう捉えるか ＝変数(variable)の相互作用

「変数」の例:

国内総生産(GDP)・人口・労働力率・利子率・為替レート
成人識字率・関税率・民主主義・(海外)直接投資
企業売上げ・賃金・中国経済成長率・不良債権
消費税率・ガソリン価格・労働時間・海外旅行者数
男女間賃金格差・離婚率・出産費用・育児休暇制度
喫煙率・煙草価格・肺がん死亡率・禁煙条例
指名代打・死球(デッドボール)・打率

社会のすべての側面を「変数」として考えることが可能

政策課題に応じて重要な変数を選択し、
その変数間の関係を考える

(政策課題)「たばこの害を減らしたい」

＝“喫煙者数を減少させること”を課題と設定

(モデル考察)「喫煙者数」の決定要因を考える

変数＝(喫煙者数)・煙草価格・所得

(モデルの妥当性)各変数についてデータを収集し、

計量経済的手法を用いて、モデルとして考えた変数

間の関係の妥当性を検証

(政策手段)モデル内で「喫煙者の数」の減少をもたらす

変数の変化を選択(煙草価格↑)

経済学で数式モデルが使われる理由

= 議論(変数間の関係)の明確化のため

喫煙者数(T), 煙草価格(P)、所得(I)

$T = F(P, I)$ ・・・この枠組みで「微分」を仮定する

言葉での表現

「一般物価水準に比較して煙草価格が上昇すれば喫煙者は減少し、所得が上昇すると喫煙者は増加する。」

重要なポイント:「モデル」は現実の社会を理解するための枠組み(そのために単純化が必要)

「モデル」は現実社会の単純化

(どの程度が妥当か?)

「単純化」しすぎても現実を正しく反映できない。「複雑化」することで現実をより正確に反映したモデルを構築できる。

「喫煙者数」のモデルを複雑化する＝変数を増やす

(例)

煙草価格・所得・人口・肺がん死亡率・煙草の品質

社会の年齢構成・煙草の販売箇所数(含・自販機)

パッケージの警告文章・嫌煙権の社会での認知状況

映画での登場人物の喫煙状況

政策提言をより「妥当」なものとするためには・・・ 「モデル」にどれだけ多くの変数を織り込めるか

(単純なモデルに基づいた政策の例)

天候不順で野菜価格高騰
→対応策として小売価格
規制を提言

(政策課題:野菜を購入しやすくすることで国民の食生活の質を維持する)

価格規制→野菜価格安定
→国民の野菜摂取低下
を防ぐ→健康維持

この「モデル」の問題点:

「野菜供給量」という変数を考慮していない

価格規制は野菜生産農家の行動に影響を与える可能性あり

供給量が減れば、想定した通り国民に野菜が行き渡るとは限らない

ポイント: 政策手段の効果がおよぶ範囲を広く検討
(=多くの「変数」を織り込む)

現代社会は極めて複雑

=ある変化(政策)が予想外の影響をもたらす

総合政策科学研究科の強み

・・・様々な分野の教員から指導を受けることが可能



視野を広げ、課題に関わる多くの「変数」に気付く

例: 新しい法律・規制の提案の前に、新しいルールが人々の行動に与える影響を経済学的視点から考えることができる

「Law and Economics (法と経済学)」

経済学における重要な変数:「価格」

経済学が仮定する「最大化」

個人(家計)の効用最大化・企業の利潤最大化

どちらも「価格」が重要な変数

(個人)商品の相対価格から購入する商品を選択

(企業)製品価格、労働・資本の価格から供給する製品・サービス、雇用する従業員、購入する設備を決める

「価格」の決定には様々な「変数」が影響する

需要側の変数・供給側の変数

「価格が上がる」ことそれ自体は「悪」では無い